

# 第5回 地域経済動向報告書

平成29年11月  
みやぎ北上商工会

目次

〔外部機関による情報収集〕

◇全国 . . . . . P2～P6

- 1. 月例経済報告 内閣府
- 2. 商業動態統計 経済産業省
- 3. 全国中小企業動向調査 日本政策金融公庫

◇東北地区 . . . . . P6～P8

- 東北地区の経済情勢 財務省東北財務局
- 1. 総論
- 2. 各論

◇宮城県 . . . . . P8～P13

- 宮城県内の経済情勢 財務省東北財務局
- 1. 総論
- 2. 各論
- 3. 最近の県内経済に関する地域の声
- 4. 資料編
- 宮城県商工会地区中小企業景況調査報告書 宮城県商工会連合会

◇登米市レベル . . . . . P14～P17

- 1. 平成 28 年登米市観光統計調査より 宮城県統計課

〔2〕分析及び総括 . . . . . P18

## 〔1〕外部機関による調査の情報収集

### ◇全国

#### 1. 月例経済報告（内閣府）

	平成29年5月	前年比	平成29年6月	前年比	平成29年7月	前年比
総括	景気は、一部に改善の遅れもみられるが、緩やかな回復基調が続いている		景気は、緩やかな回復基調が続いている	↗	景気は、緩やかな回復基調が続いている	
個人消費	総じてみれば持ち直しの動きが続いている		緩やかに持ち直している	↗	緩やかに持ち直している	
設備投資	持ち直しの動きがみられる		持ち直している	↗	持ち直している	
住宅建設	弱含んでいる		このところ横ばいとなっている	↗	このところ横ばいとなっている	↘
公共投資	底堅い動きとなっている		底堅さが増している	↗	底堅さが増している	
輸出	持ち直している		持ち直している		持ち直している	
生産	持ち直している		持ち直している		持ち直している	↗
企業収益	改善している		改善している		改善している	
企業業況判断	改善している		改善している		改善している	↗
倒産件数	おおむね横ばいとなっている		おおむね横ばいとなっている		おおむね横ばいとなっている	
雇用情勢	改善している		改善している		改善している	
消費者物価	横ばいとなっている		横ばいとなっている		横ばいとなっている	

	平成29年8月	前年比	平成29年9月	前年比	平成29年10月	前年比
総括	景気は、緩やかな回復基調が続いている。		景気は、緩やかな回復基調が続いている		景気は、緩やかな回復基調が続いている	
個人消費	緩やかに持ち直している		緩やかに持ち直している		緩やかに持ち直している	
設備投資	持ち直している		持ち直している		持ち直している	
住宅建設	横ばいとなっている	↗	横ばいとなっている		横ばいとなっている	
公共投資	堅調に推移している	↗	堅調に推移している		堅調に推移している	
輸出	持ち直している		持ち直している		持ち直している	
生産	持ち直している		持ち直している		持ち直している	
企業収益	改善している		改善している		改善している	
企業業況判断	改善している		改善している		改善している	
倒産件数	おおむね横ばいとなっている		おおむね横ばいとなっている		おおむね横ばいとなっている	
雇用情勢	改善している		改善している		改善している	
消費者物価	横ばいとなっている		横ばいとなっている		横ばいとなっている	

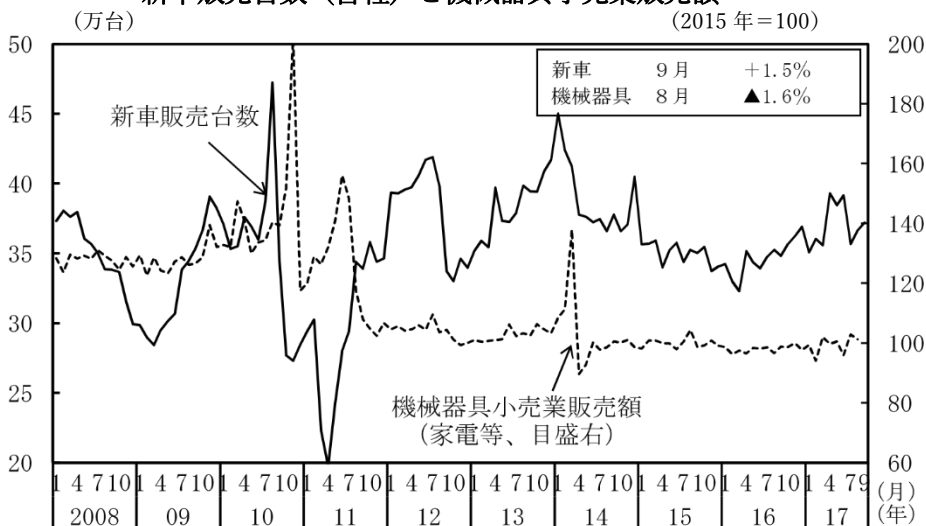
#### ■個人消費の需要動向（10月25日発表より）

個人消費は、緩やかに持ち直している。実質総雇用者所得は緩やかに増加している。また、消費者マインドは持ち直している。

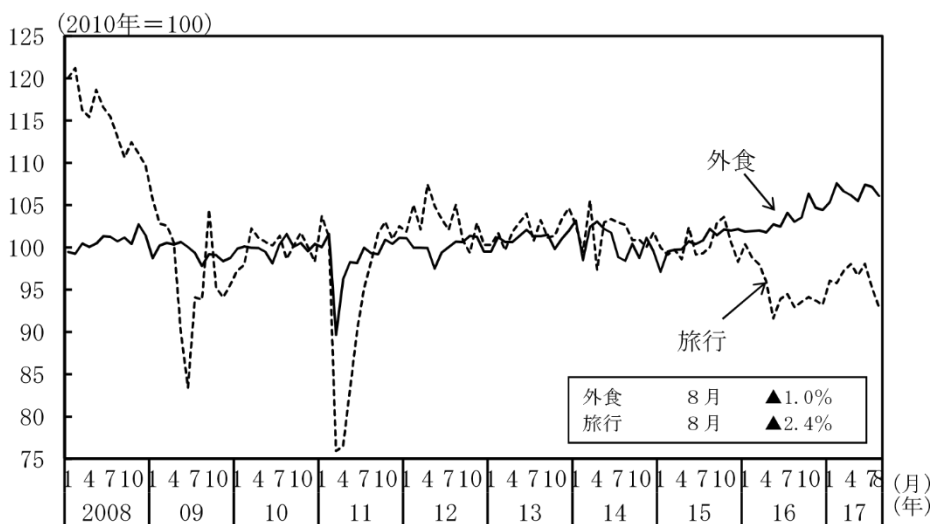
需要側統計（「家計調査」等）と供給側統計（鉱工業出荷指数等）を合成した消費総合指数は、8月は前月比

0.4%増となった。個別の指標について、最近の動きをみると、「家計調査」（8月）では、実質消費支出は前月比0.2%増となり、実質消費支出（除く住居等）は同0.1%減となった。販売側の統計をみると、「商業動態統計」（8月）では、小売業販売額は前月比1.6%減となった。新車販売台数は持ち直している。家電販売はおおむね横ばいとなっている。旅行はおおむね横ばいとなっている。外食は緩やかに増加している。先行きについては、雇用・所得環境が改善するなかで、持ち直していくことが期待される。

### 新車販売台数（含軽）と機械器具小売業販売額



### 外食売上高と旅行取扱高



(備考)

上図：新車販売台数は、日本自動車販売協会連合会及び全国軽自動車協会連合会により作成。内閣府による季節調整値。ナンバーベース。機械器具小売業販売額は、経済産業省「商業動態統計」により作成。季節調整値。

下図：外食売上高は、フードサービス協会「外食産業市場動向調査」により作成。内閣府による季節調整値。旅行取扱額は鉄道旅客協会「販売概況」により作成。内閣府による季節調整値

## 2. 商業動態統計（経済産業省）より 「9月分確報」

### 1) 卸売業販売額の動向

卸売業を業種別にみると、鉱物・金属材料卸売業が前年同月比 10.1%の増加、化学製品卸売業が同 7.3%の増加、建築材料卸売業が同 6.3%の増加、農畜産物・水産物卸売業が同 3.7%の増加、食料・飲料卸売業が同 3.5%の増加、衣服・身の回り品卸売業が同 3.3%の増加、機械器具卸売業が同 3.0%の増加、その他の卸売業が同 2.4%の増加、繊維品卸売業が同 1.9%の増加、各種商品卸売業が同 1.6%の増加、医薬品・化粧品卸売業が同 1.6%の増加となった。

一方、家具・建具・じゅう器卸売業が同▲5.9%の減少となった。

主要卸売業の前年同月比増減率 (単位:%)

卸売業	各種商品卸売業	農畜産物・水産物卸売業	食料・飲料卸売業	鉱物・金属材料卸売業	機械器具卸売業	医薬品・化粧品卸売業
4.0	1.6	3.7	3.5	10.1	3.0	1.6

### (2) 小売業販売額の動向

小売業を業種別にみると、自動車小売業が前年同月比 5.9%の増加、医薬品・化粧品小売業が同 5.7%の増加、織物・衣服・身の回り品小売業が同 5.3%の増加、燃料小売業が同 4.9%の増加、各種商品小売業（百貨店など）が同 1.2%の増加、飲食料品小売業が同 0.6%の増加、機械器具小売業が同 0.6%の増加、その他小売業が同 0.4%の増加となった。

一方、無店舗小売業が同▲0.6%の減少となった。

小売業の前年同月比増減率 (単位:%)

小売業	各種商品小売業	織物・衣服・身の回り品小売業	飲食料品小売業	自動車小売業	機械器具小売業	燃料小売業	医薬品・化粧品小売業	その他小売業	無店舗小売業
2.3	1.2	5.3	0.6	5.9	0.6	4.9	5.7	0.4	▲0.6

## 3. 全国中小企業動向調査（日本政策金融公庫）より

■小企業編（四半期調査） 〈2017年7～9月期実績、10～12月期見通し〉

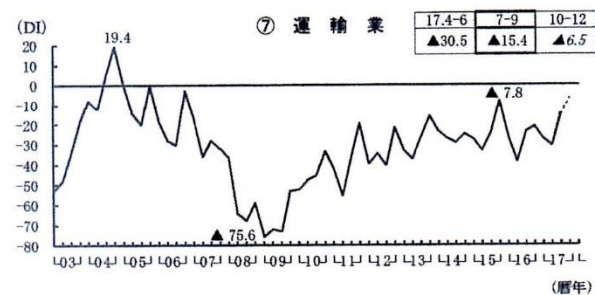
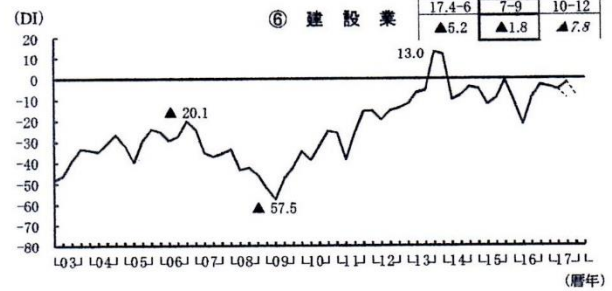
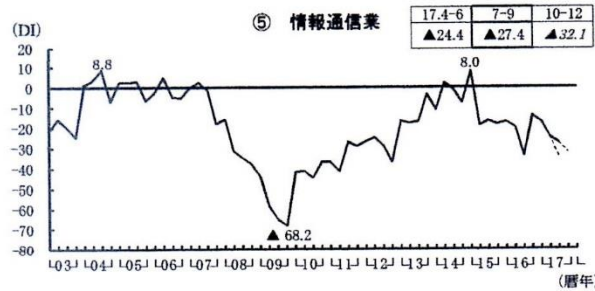
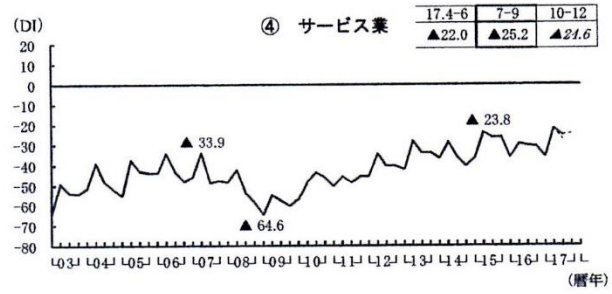
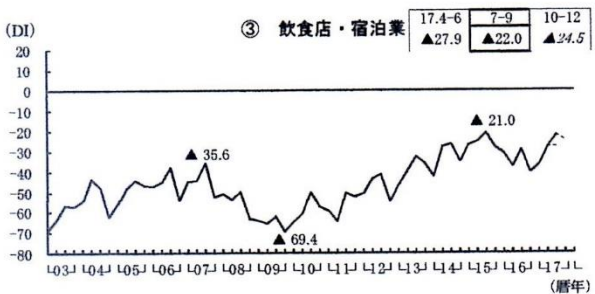
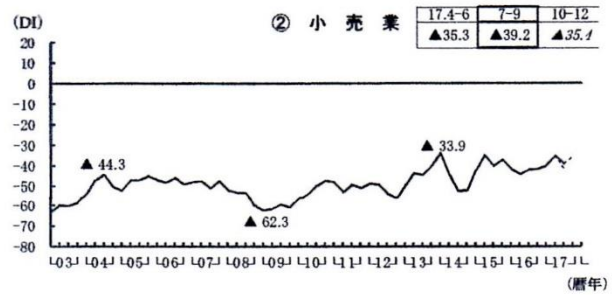
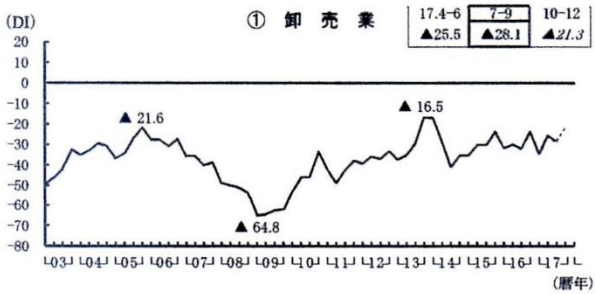
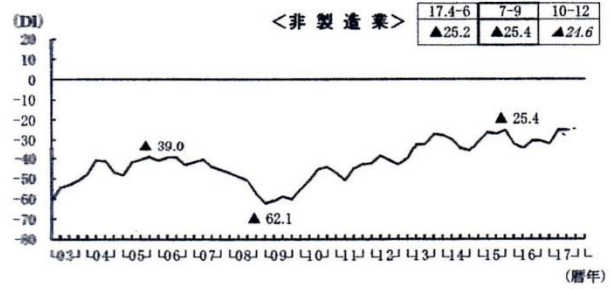
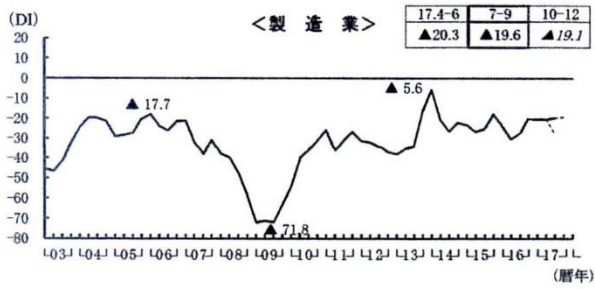
### 1) 概況

#### 小企業の景況は、持ち直しの動きがみられる

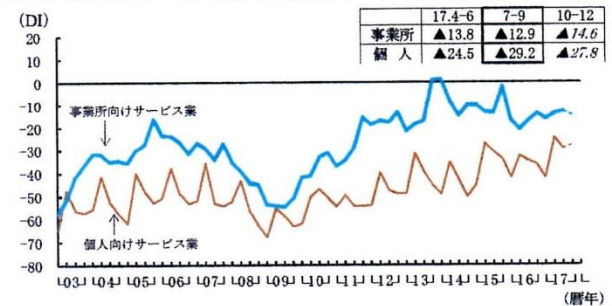
### 2) 業況判断

- 今期の業況判断 DI（全業種計）は、前回調査（2017年4～6月期）からほぼ横ばいの▲24.5となった。
- 来期は、マイナス幅が縮小し、▲23.8となる見通しである。

■ 図一 業種別業況判断 DI の推移



(参考) 個人向けサービス業と事業所向けサービス業の業況判断DIの推移



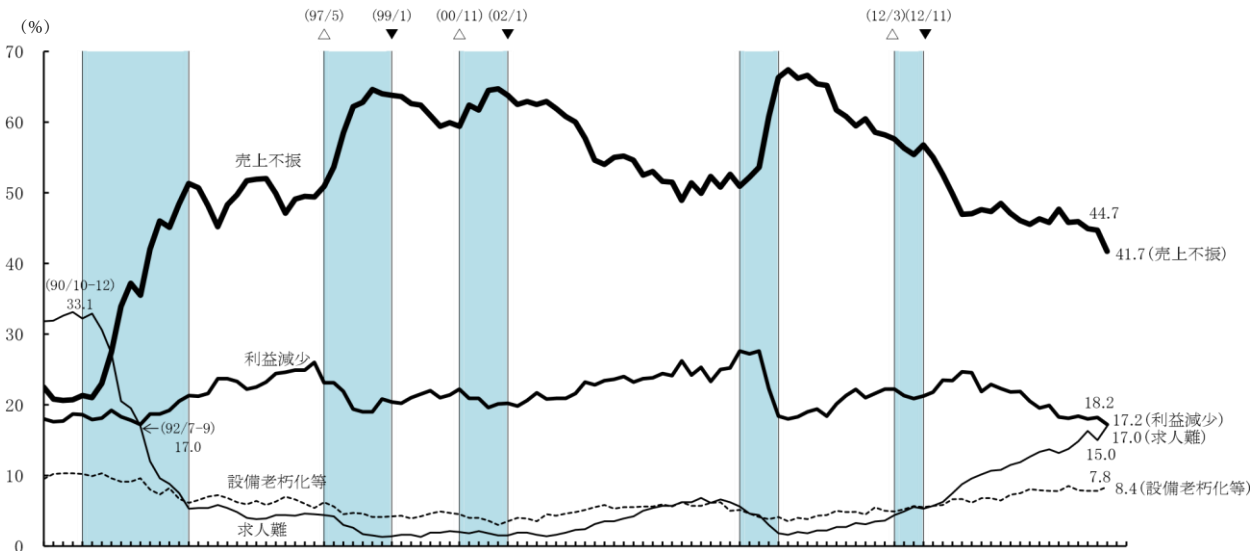
### 3) 主要DI (カッコ内は前回調査からの変動幅)

業況判断 DI	売上 DI	採算 DI	資金繰り DI	借入 DI
▲24.5 (-0.1)	▲18.5 (+2.0)	▲11.8 (-0.2)	▲18.0 (-2.1)	▲5.4 (+0.1)

### 4) 経営上の問題点

○ 当面の経営上の問題点 (全業種計) をみると、「売上不振」が 41.7%と依然として最も多く、次いで、「利益減少」(17.2%)、「求人難」(17.0%)の順となっている。

■ 図一 経営上の問題点の推移 (全業種計、上位 4 項目)



### ◇ 東北地区

#### 東北地区の経済情勢 (財務省東北財務局)

##### 1. 総論

管内経済は、回復しつつある。

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果や復興需要を背景に、景気が回復していくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性などに留意する必要がある。

#### 【総括判断】

前回 (29年7月判断)	今回(29年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
回復しつつある	回復しつつある	→	個人消費は、百貨店・スーパー販売における主力の飲食物品が堅調となっているほか、コンビニエンスストア販売や乗用車販売で前年を上回っており、回復しつつある。生産活動は、はん用・生産用・業務用機械が国内外の旺盛な需要により増加しているほか、輸送機械は高水準の生産が続いていることから、緩やかに持ち直している。雇用情勢は改善している。

(注) 29年10月判断は、前回7月判断以降、10月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

## 【各項目の判断】

項目	前回（29年7月判断）	今回（29年10月判断）	前回比較
個人消費	回復しつつある	回復しつつある	→
生産活動	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
雇用情勢	改善している	改善している	→
設備投資	29年度は増加見通し	29年度は増加見通し	→
企業収益	29年度は減益見通し	29年度は増益見通し	↗
企業の景況感	「下降」超幅が縮小	「下降」超幅が縮小	→
住宅建設	一進一退の状況にある	前年を下回っている	↘
公共事業	高水準となっている	高水準となっている	→

## 2. 各論

### ■個人消費 「回復しつつある」

個人消費は、百貨店・スーパー販売における主力の飲食料品は堅調となっているほか、コンビニエンスストア販売やドラッグストア販売は新商品の投入効果等により、乗用車販売は新型車効果等から前年を上回っている。また、家電販売はテレビ等が好調となっている。このように、個人消費は、回復しつつある。

### ■生産活動 「緩やかに持ち直している」

生産活動は、電子部品・デバイスが、自動車向けが堅調であるものの、スマートフォン向けで一部に伸び悩みがみられることから、回復に向けた動きが緩やかになっている。一方、はん用・生産用・業務用機械が、半導体製造装置や自動化・省力化投資向けの設備など国内外からの旺盛な需要により、増加しているほか、輸送機械が高水準となっていることから、全体では緩やかに持ち直している。

### ■雇用情勢 「改善している」

雇用情勢は、有効求人倍率が高水準で推移しているほか、新規求人数が前年を上回って推移しており、完全失業率が低水準となっているなど、改善している。（参考）本局所在県（宮城県）の賃金の動き 現金給与総額（名目賃金）は、前年を下回っている。

### ■設備投資 「29年度は増加見通し」（全産業） 「法人企業景気予測調査」 29年7-9月期

- 製造業では、情報通信機械等で増加見通しとなっているものの、輸送用機械、木材・木製品等で減少見通しとなっていることから、全体では減少見通しとなっている。
- 非製造業では、卸売等で減少見通しとなっているものの、金融・保険、不動産等で増加見通しとなっていることから、全体では増加見通しとなっている。

### ■企業収益 「29年度は増益見通し」（全産業） 「法人企業景気予測調査」 29年7-9月期

- 製造業では、非鉄金属等で減益見通しとなっているものの、輸送用機械、生産用機械等で増益見通しとなっていることから、全体では増益見通しとなっている。
- 非製造業では、小売等で増益見通しとなっているものの、専門・技術サービスで赤字転化見通しとなっているほか、建設等で減益見通しとなっていることから、全体では減益見通しとなっている。

### ■企業の景況感 「『下降』超幅が縮小」（全産業） 「法人企業景気予測調査」 29年7-9月期

- 現状（平成29年7～9月期）は「下降」超幅が縮小している。先行きは29年10～12月期に「上昇」超に転じ、30年1～3月期に「下降」超に転じる見通しとなっている。



■住宅建設 「前年を下回っている」

○ 新設住宅着工戸数をみると、分譲が前年を上回っているものの、持家、貸家が前年を下回っていることから、全体としては前年を下回っている。

■公共事業 「高水準となっている」

○ 前払金保証請負金額でみると、震災関連の工事等を主体に高水準となっている。

■消費者物価 「前年を上回っている」

■金融 「貸出金残高は、前年を上回っている」

■企業倒産 「件数は前年を上回っており、負債総額は前年を下回っている」

◇宮城県

宮城県内の経済情勢（財務省東北財務局）


1. 総論

県内経済は、緩やかに回復している。

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続く中で、各種政策の効果や復興需要を背景に、景気が回復していくことが期待される。

ただし、海外経済の不確実性などに留意する必要がある。

【総括判断】

前回（29年7月判断）	今回（29年10月判断）	前回比較	総括判断の要点
緩やかに回復している	緩やかに回復している		個人消費は、百貨店・スーパー販売における主力の飲食料品が堅調となっているほか、コンビニエンスストア販売や乗用車販売で前年を上回っており、回復しつつある。生産活動は、電子部品・デバイスで高水準の生産が続いているほか、生産用・業務用機械は半導体製造装置の需要が増加していることから緩やかに回復しつつある。雇用情勢は改善している。

【各項目の判断】

項目	前回（29年7月判断）	今回（29年10月判断）	前回比較
個人消費	回復しつつある	回復しつつある	
生産活動	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	
雇用情勢	改善している	改善している	
設備投資	29年度は増加見通し	29年度は増加見通し	
企業収益	29年度は減益見通し	29年度は減益見通し	
企業の景況感	「下降」超幅が縮小	「下降」超幅が縮小	
住宅建設	前年を上回っている	前年を上回っている	
公共事業	高水準となっている	高水準となっている	

## 〔10月の七十七銀行総括判断〕

復興需要がピークアウトしているものの。経済活動は総じて高水準で推移しており、基調としては緩やかに回復している（7月より据え置き）

## 2. 各論

### ■個人消費 「回復しつつある」

個人消費は、百貨店・スーパー販売における主力の飲食料品は堅調となっているほか、コンビニエンスストア販売やドラッグストア販売は新商品の投入効果等により、乗用車販売は新型車効果等から前年を上回っている。また、家電販売はテレビ等が好調となっている。このように、個人消費は、回復しつつある。

### ■生産活動 「緩やかに回復しつつある」

生産活動は、電子部品・デバイスがスマートフォン向けを中心に高水準となっているほか、生産用・業務用機械が半導体製造装置の需要が旺盛であることから増加しており、全体では緩やかに回復しつつある。

### ■雇用情勢 「改善している」

雇用情勢は、有効求人倍率が高水準で推移しているほか、新規求人数が前年を上回って推移しており、完全失業率が低水準となっているなど、改善している。（参考）宮城県の賃金の動き 現金給与総額（名目賃金）は、前年を下回っている。

### ■設備投資 「29年度は増加見通し」（全産業） 「法人企業景気予測調査」 29年7-9月期

- 製造業は、減少見通しとなっている。
- 非製造業は、増加見通しとなっている。

### ■企業収益 「29年度は減益見通し」（全産業） 「法人企業景気予測調査」 29年7-9月期

- 製造業は、増益見通しとなっている。
- 非製造業は、減益見通しとなっている。

### ■企業の景況感 「『下降』超幅が拡大」（全産業） 「法人企業景気予測調査」 29年7-9月期

- 現状（平成29年7～9月期）は「下降」超幅が拡大している。先行きは「下降」超幅が拡大する見通しとなっている。

### ■住宅建設 「前年を上回っている」

- 新設住宅着工戸数をみると、持家で前年を下回っているものの、貸家、分譲で前年を上回っていることから、全体としては前年を上回っている。

### ■公共事業 「高水準となっている」

- 前払金保証請負金額でみると、震災関連の工事等を主体に高水準となっている。

### ■消費者物価 「前年を上回っている」

### ■金融 「貸出金残高は、前年を上回っている」

### ■企業倒産 「件数は前年並みとなり、負債総額は前年を上回っている」

## 3. 最近の県内経済に関する地域の声

### 1) 個人消費について

- 主力の食料品で寿司やサラダなどの総菜が順調。飲料は、8月に低温長雨の影響で大きく売上を落とした。(スーパー、大企業)
- 化粧品は百貨店ブランドが支持されており好調に推移しているほか、宝飾時計が売上を伸ばしている。衣料品は七分丈などの秋物衣料に動きがみられる。(百貨店、中堅企業)
- 新規出店効果のほか、カウンターフーズや新商品のサンドイッチ等が好調となっている。(コンビニエンスストア、大企業)
- 食料品の売場面積を広げ、新商品を積極的に投入することで、来店客が増え売上を伸ばしている。(ドラッグストア、大企業)
- テレビは、4Kで40～50型の大型タイプを中心に動きがみられるほか、話題の有機ELは高価だが、若年層にも人気がある。(家電量販店、大企業)
- 普通車の人気車種で需要に落ち着きがみられるものの、小型車を中心に新型車効果から動きがみられる。(自動車販売店、大企業)
- 国内旅行は、関西方面が人気で安定しており、海外旅行は、台湾などのアジア方面が人気となっている。(旅行代理店、中堅企業)

### 2) 生産活動について

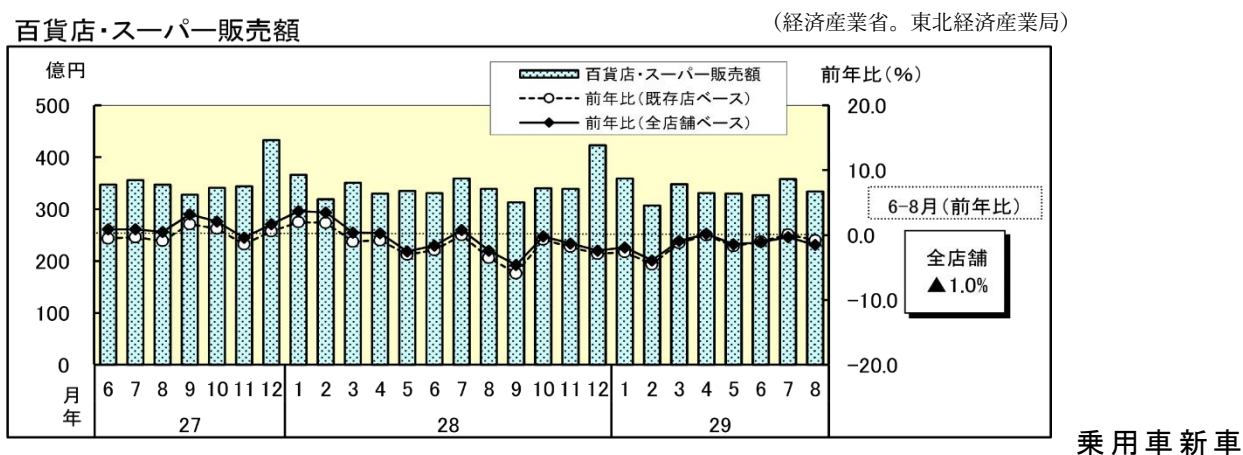
- スマートフォン向けは、新機種向けの部品発注が後ろ倒しされている感じがするものの、例年どおり増加してきている。(電子部品・デバイス、大企業)
- スマートフォン向けでフル生産の状態。ただし計画に比べるとまだ動きは鈍い。(電子部品・デバイス、中堅企業)
- 半導体製造装置向けが依然として高水準、また、スマートフォン向けでも新機種への部品採用が決まるなど好調を維持している。(電子部品・デバイス、中堅企業)
- データ量の増加などを背景に、高機能な半導体を製造するための装置に対する需要が引き続き旺盛、当面、増え続けるのではないかと。(生産用機械、中堅企業)

### 3) 雇用情勢について

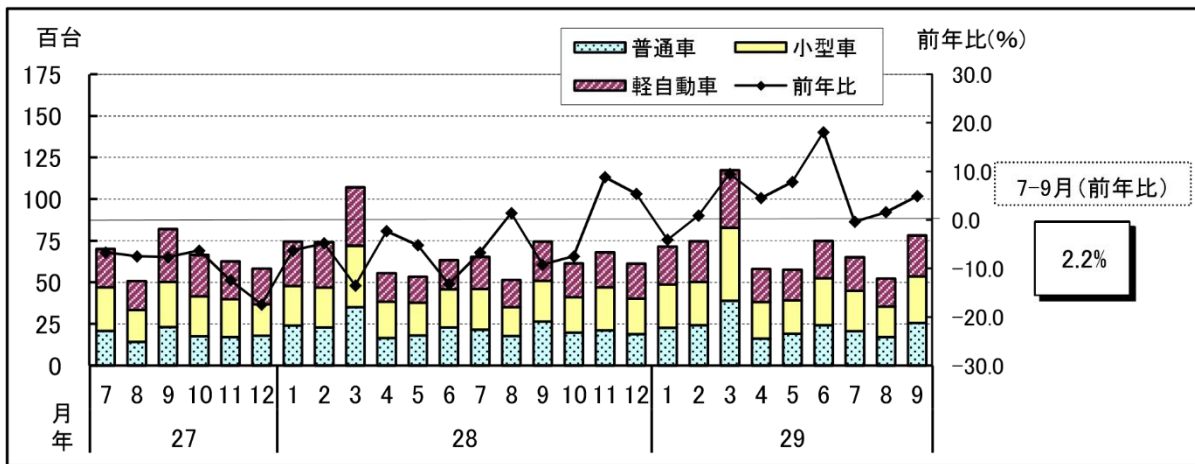
- 医療・福祉分野では、事業拡大や新規施設整備に伴い、新規求人が高い水準となっている。(公的機関)
- 平成29年7月の現金給与総額は、一般労働者数の減少により、前年を下回っている。(公的機関)

## 3. 資料編

### 1) 個人消費・・・緩やかに回復している

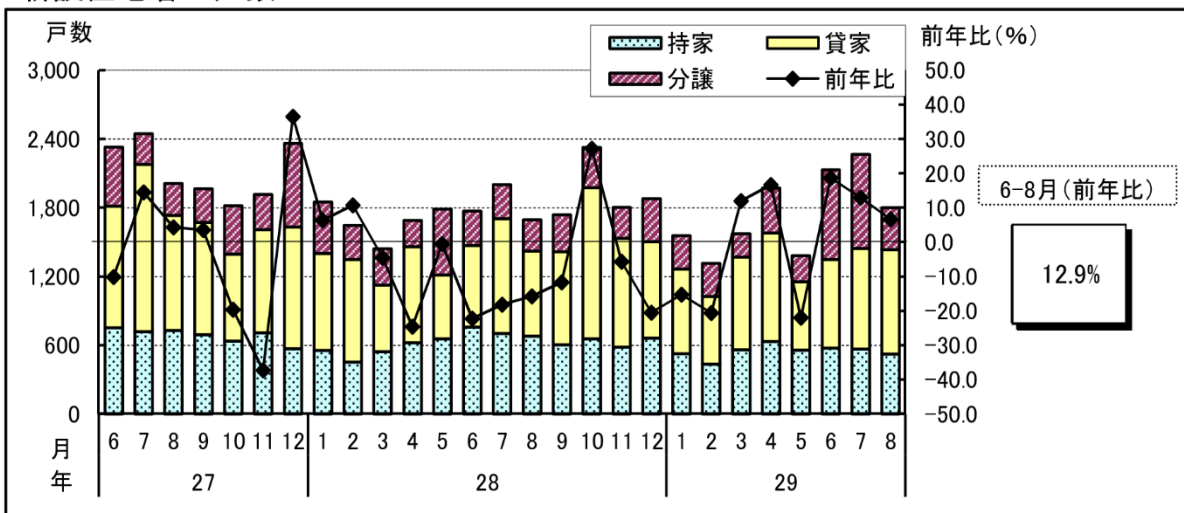


登録数・届出台数



2) 住宅建設・・・前年を上回っている

新設住宅着工戸数



3) 企業の景況感・・・「下降」超幅が縮小

景況判断 BSI[原数値] (前期比「上昇」引く—「下降」社数構成比

(単位：%ポイント)

区分		29年4～6月 (29年4-6月期調査)	29年7～9月 現状判断	29年10～12月 見通し	30年1～3月 見通し
全産業		(▲0.5)	(1.4) ▲3.3	(0.0) ▲3.8	▲6.6
業種別	製造業	(▲11.1)	(13.3) ▲6.8	(2.2) ▲2.3	▲9.1
	非製造業	2.4	(▲1.8) ▲2.4	(▲0.6) ▲4.2	▲6.0

(注) ( ) 書きは前回調査結果

〔東北財務局「法人企業景気予測調査 (29年7-9月期調査)」〕

5. 宮城県商工会地区中小企業景況調査報告書（宮城県商工会連合会 29年7-9月報告、29年10-12月予想）より

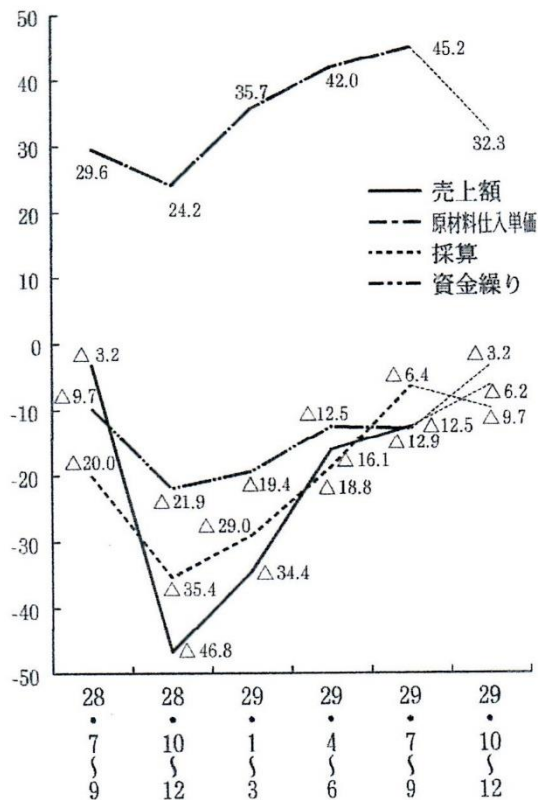
■県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期（平成29年7月～9月期）の調査において、産業全体の業況DI（前年同期との比較DI、以下同じ）は、前期より3.7ポイントの改善で△27.8（前期△31.5）となった。産業別にみると、製造業が0.0（前期△21.9）と29.1ポイント改善、建設業で△2.1ポイント悪化、サービス業で▲25.0（前期△28.2）と3.2ポイントの改善であった。

■主要景況項目の推移（前年同期比）「グラフの単位：DI（%）」

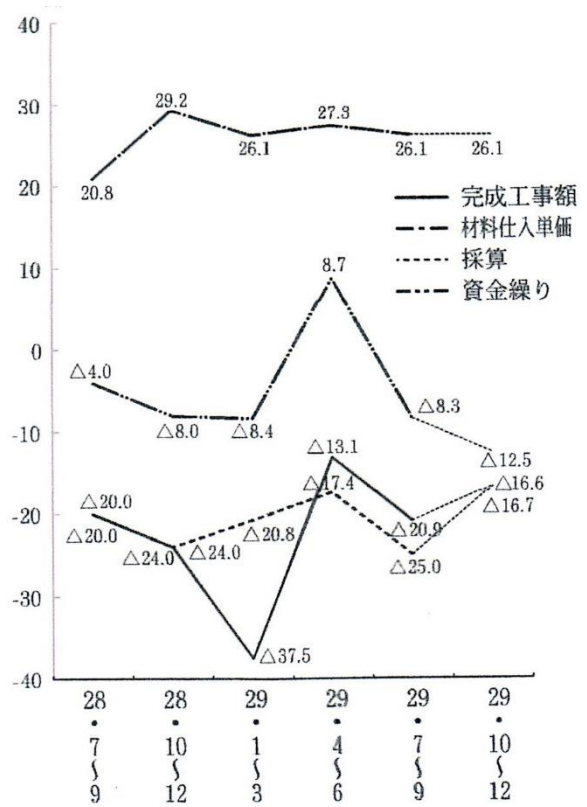
〔製造業〕

売上額DIが3.6ポイントの改善、仕入単価上昇



〔建設業〕

完成工事額DIは7.8ポイント悪化、仕入単価低下

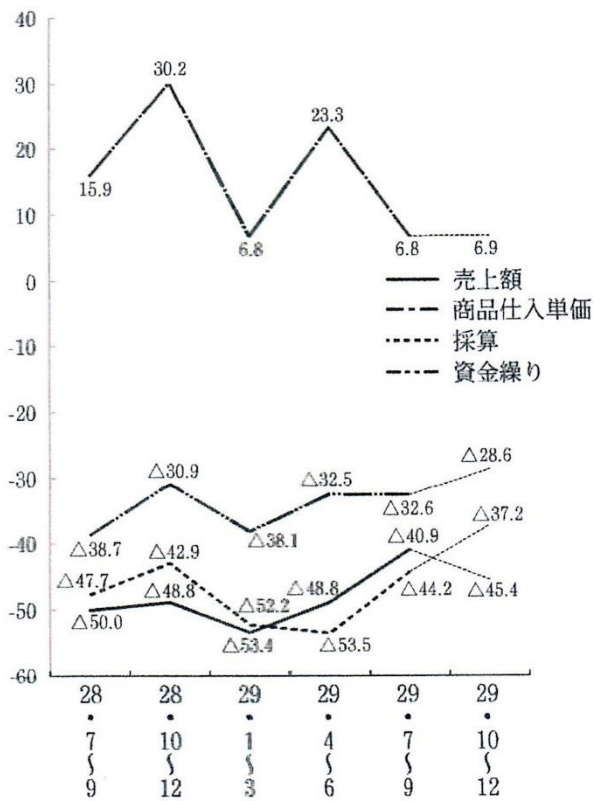


○重要度第1位の問題点は「製品単価の低下、上昇難」「熟練技術者の確保難」、「需要の停滞」が同率16.1%であった。

○重要度第1位の問題点は「民間需要の停滞」が34.8%で、次いで「熟練技術者の確保難」と「請負単価の低下、上昇難」が13.0%であった。

〔小売業〕

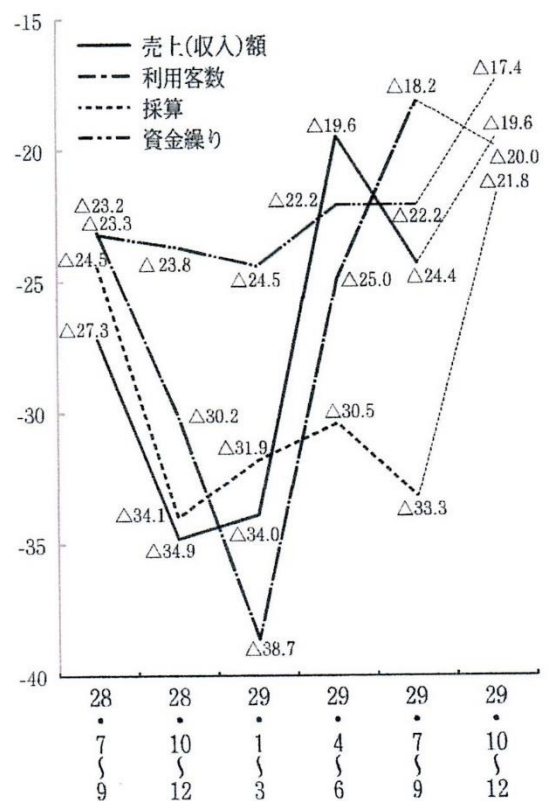
売上額 DI は 7.9 ポイントの改善、仕入単価低下



○重要度第 1 位の問題点は「需要の停滞」で 21.4% 次いで「購買力の他地域への流出」が 19.0%、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が続いた。

〔サービス業〕

売上額・採算 DI は悪化、利用客数は上昇



○重要度第 1 位の問題点は「利用者ニーズの変化」で 25.0%、次いで「需要の停滞」が 18.2%、「店舗施設の狭隘・老朽化」が同率 43.2%。

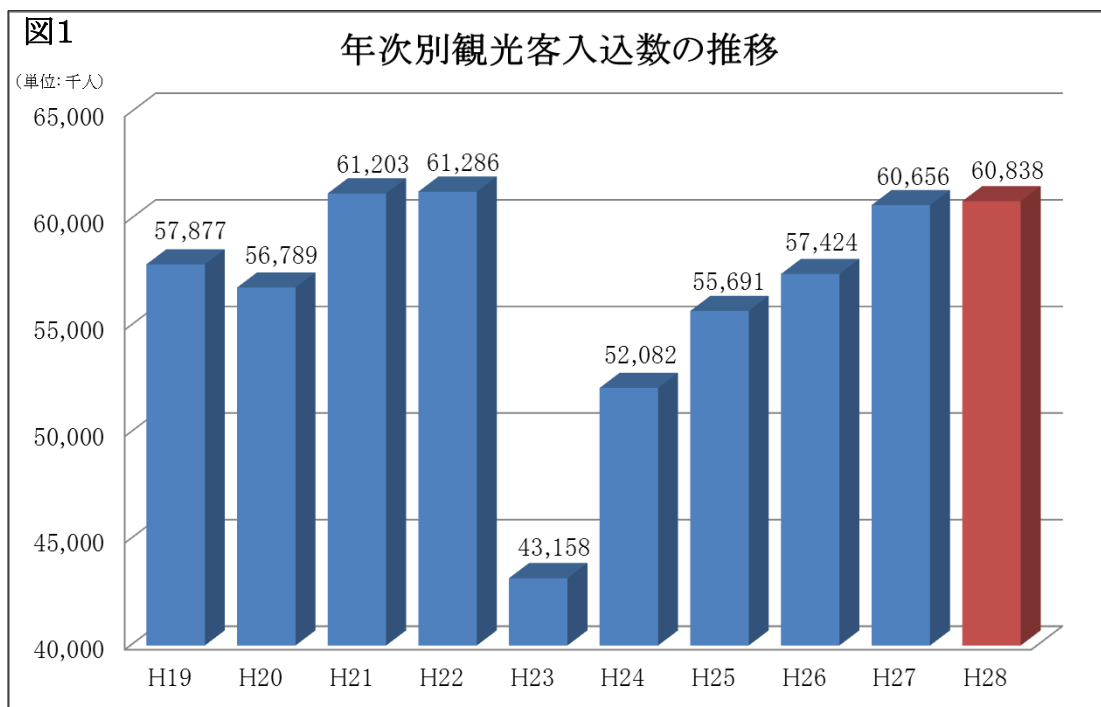
◇登米市レベル

■平成28年登米市観光統計調査（宮城県観光統計資料より）、みやぎ北上商工会作成

1) 宮城県内観光客入込数について

県内全体の観光客入込数は 60,838 千人と、前年に比べ 182 千人、0.3%増加しました。東日本大震災前の H22 年と比べると同水準まで回復しています（H22 年比 99.3%）。（図 1）

前年から観光客入込数が増えた要因としては、H27 年に再開した観光集客施設の通年営業や海水浴場の再開、各種観光施策による誘客効果などが挙げられます。



2) 県内観光消費額・観光による経済効果の推計

平成 28 年の観光客入込数及び宿泊観光客数を基に「平成 24 年度観光動態調査報告書」の係数及び平均消費額を用いて算出すると、観光による直接効果額は 4,532 億円になります。

また、観光消費額を基に産業連関表を用いて波及効果等を推計すると、波及効果が 3,015 億円となり、観光による総合波及効果は 7,547 億円と見込まれます。

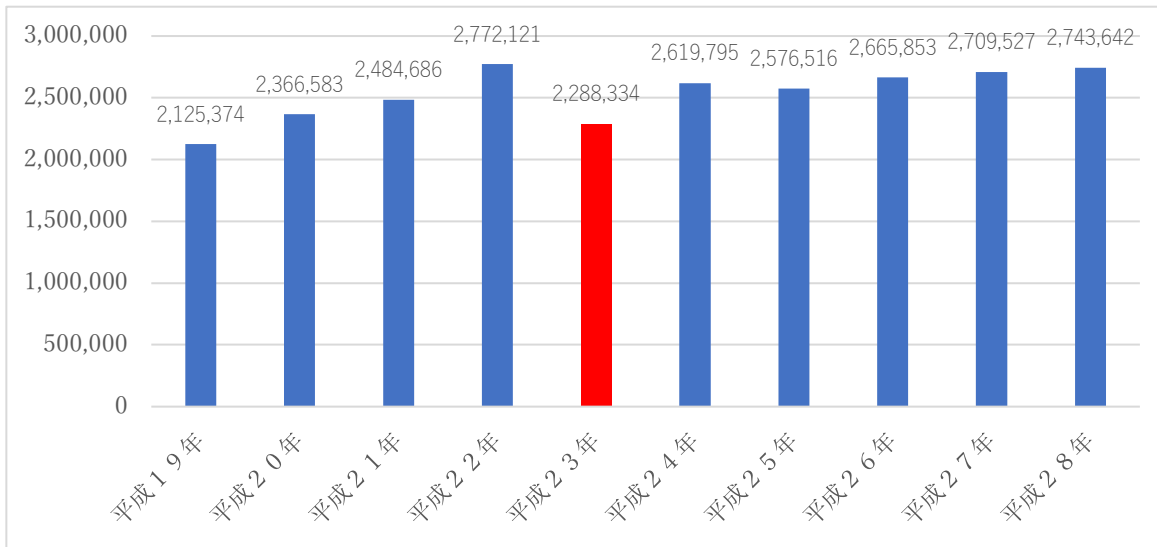
観光客の平均消費額

(単位:千円)

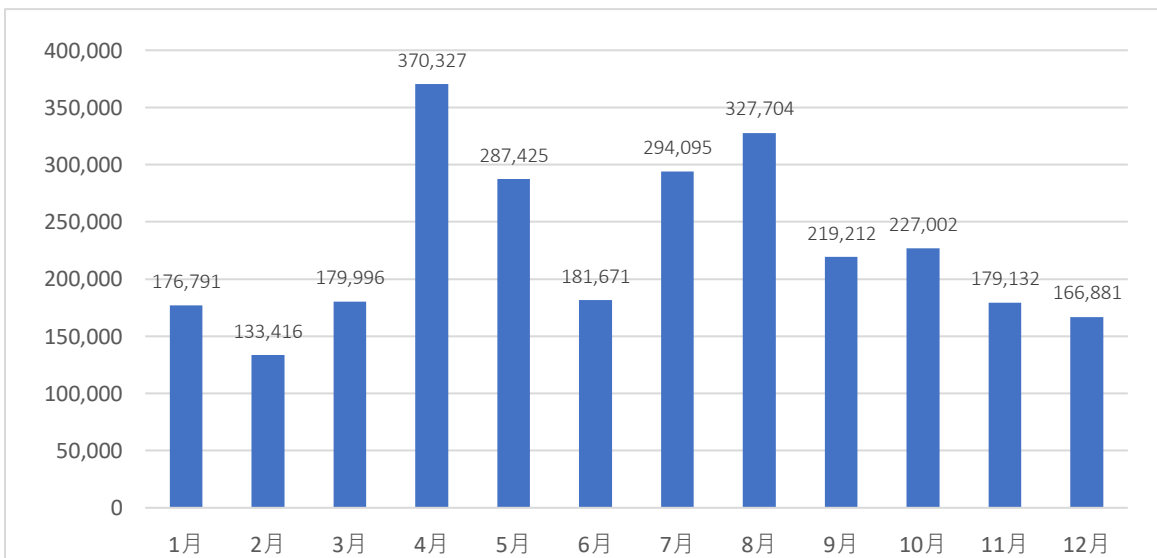
	消費総額		宿泊代		飲食代		みやげ代		交通費		入場・観覧費	
	県内客	県外客	県内客	県外客	県内客	県外客	県内客	県外客	県内客	県外客	県内客	県外客
日帰り客	4.5	10.0	—	—	1.3	2.0	1.9	3.5	1.0	2.8	1.2	1.1
宿泊客	26.1	36.3	17.7	19.5	3.9	7.0	4.5	7.4	3.7	9.0	1.8	2.1

### 3) 登米市年次別観光客入込数の推移

登米圏域では、イベントで天候に恵まれたこと等により、観光客入込数が 2,744 千人で前年に比べ 34 千人、1.3%増加しました。H22 年比では、99.0%まで回復しています。



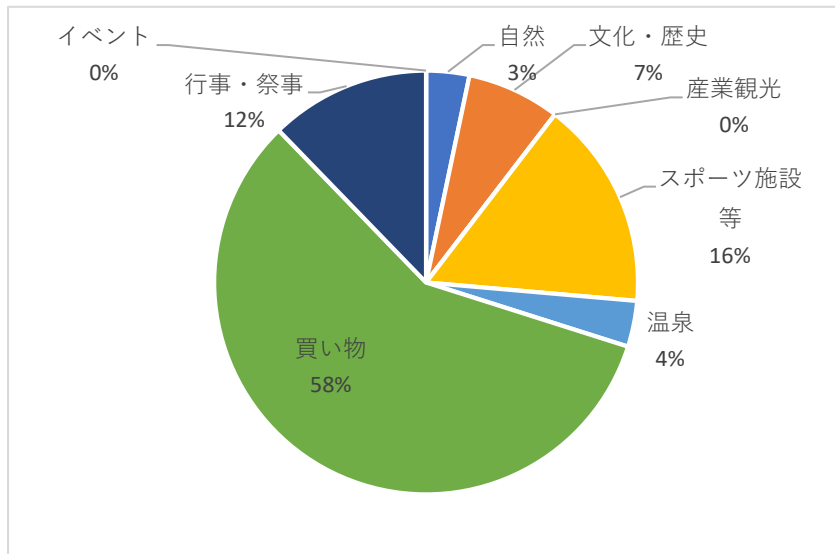
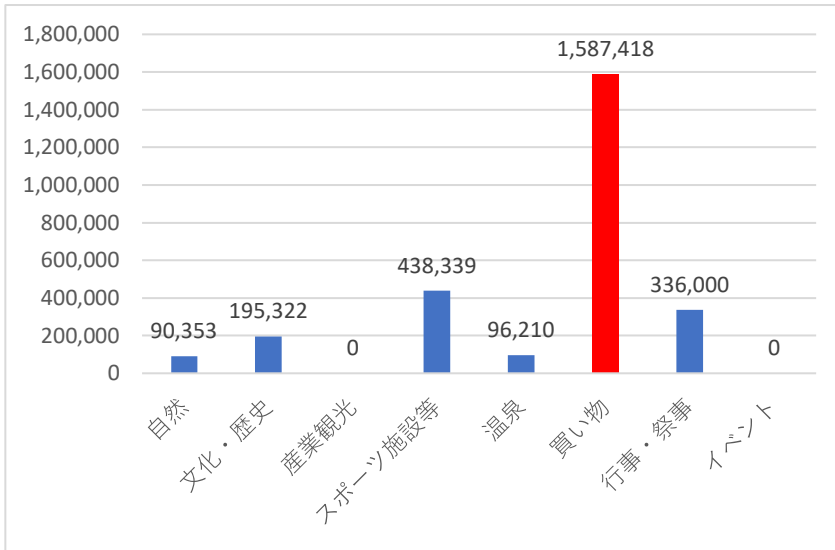
### 4) 登米市月別観光客入込数





### 5) 分類別観光客入込数

(単位：人)



6) 登米市の主要観光地点別観光客入込数の推移

	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	対前年増減 数
伊豆沼・内沼	55,923	46,818	48,171	1,353
長沼フートピア公園	305,356	268,385	287,420	19,035
登米市歴史博物館	9,690	11,096	8,960	△2,136
長沼温泉ロトヴィーナス	101,199	96,785	96,210	△575
教育資料館	32,951	28,454	27,688	△766
警察資料館	3,676	5,515	3,662	△1,853
水沢県庁記念館	1,586	3,314	1,222	△2,092
伝統芸能伝承館	861	2,662	1,304	△1,358
懐古館	1,768	3,350	1,318	△2,032
道の駅「林林館」	298,234	305,905	287,340	△18,565
石ノ森章太郎ふるさと記念館	19,641	16,007	14,732	△1,275
平筒沼ふれあい公園	98,764	91,559	115,357	23,798
道の駅「米山」	177,206	238,443	244,257	5,814
チャチャワールドいしこし	26,422	30,937	21,215	△9,722
花菖蒲の郷公園	6,350	9,370	9,940	570
大嶽山興福寺	3,630	4,370	4,520	150
道の駅「みなみかた」	362,801	397,285	395,342	△1,943
柳津虚空蔵尊	96,000	96,000	92,000	△4,000
横山不動尊	33,000	33,000	33,000	0
道の駅「もくもくランド」	368,670	368,484	366,532	△1,952

## 〔2〕分析及び総括

### 1) 経済動向現状分析

全国から宮城県内まで、どの調査指標を見ても、景況感は「緩やかに持ち直している」「緩やかに回復している」であった。

県内の個人消費については、「緩やかに回復している」状況下であるが、商工会調べの中小企業における現在の問題点は、「需要の停滞」が多くを占めている。これは、回復の振れ幅が極めて小さく、現場では感じ取れるほどのことではない状況であることが伺える。特に、企業の規模が小規模であるほど景気回復感の実感できていない。

ただし、景気は回復傾向であることは数字が表しており、上向きであるうちに企業サイドは早めの仕掛けや対策の手を打つことが肝要と思われる。

### 2) 登米市観光入込状況について

平成28年は、前年対比で約3.4万人の増加であった。観光入込数も震災前の平成22年に比べ99%まで復帰している。

ただし、問題点として観光施設が全体として集客ダウンしていることがあげられる。増加の要因は「長沼フートピア公園」「平筒沼ふれあい公園」であり、文化的な施設の入込減少が顕著にみられる。

さらに、11月～3月までの集客が少なく、季節波動が大きくみられるため改善の対策が必要である。当地区は、道の駅が観光客の主要ポイントであることから、あらためて情報発信の拠点として対策を講じる必要があると考える。